

染田屋茂の書籍翻訳ワークショップ 2017《ノンフィクション編》

弊社リベルでは、昨年に引き続き、書籍翻訳の全プロセス（リーディング、翻訳、推敲、校正など）を実践的に学べるワークショップを開催いたします。実際に刊行される可能性が高い1冊の書籍を受講者6人で分担して翻訳します。刊行された場合には、書籍に翻訳協力者としてお名前が掲載される予定です。

昨年のワークショップ・ノンフィクション編では、期間中に受講者の皆さんの翻訳スキルが大きくアップし、現在のところ、6人の受講者のうち5人に別々の書籍の翻訳を弊社から依頼しています（4人にとっては初の訳書となる予定です）。

まさしく「仕事につながる書籍翻訳ワークショップ」です。

概要

ジャンル	英語ノンフィクション
対象	書籍翻訳の経験のある方、書籍翻訳の勉強をされている方、 あるいは同程度の翻訳力のある方 ※翻訳スキルチェックによって受講者を決定いたします
定員	6名
受講料	143,000円（154,440円税込）
場所	株式会社リベル ミーティングルーム（最寄駅：表参道、渋谷、明治神宮前）
日時	2017年3月25日から2017年9月中旬まで（詳しい日程については次ページをご覧ください） 全9回、土曜日 13:00～15:00

講師プロフィール

染田屋 茂（そめたや・しげる）

1950年、東京都生まれ。1974年、早川書房入社。以後、10年間の翻訳専門期間をはさみ、朝日新聞社、武田ランダムハウス・ジャパン、KADOKAWAで翻訳書を中心に書籍編集に携わる。『「移動」の未来』（日経BP）『極大射程』（新潮文庫）、『死の記憶』（文春文庫）など、多数の訳書がある。

講師からのメッセージ

昨年開催したノンフィクションとフィクションのワークショップを通じて改めて思い知らされたのは、受講者の方々それぞれの持つ長所・短所がまったく違うことでした。

英語力は十分あるのに、作者の意図を読み間違えて誤訳を重ねてしまう方。読みやすさにこだわりすぎて、原文の持つ味わいを薄めてしまう方。辞書に載っている訳語に捉われて、つい読み手の頭にすんなり入らない訳文を書いてしまう方……

個々に違う長所を伸ばし、短所を減らしていくには、ひとりひとりの受講者の個性を見分け、頻繁にフィードバックできる形式でなければなりません。その点、限られた人数で、実践的な作業をしながら切磋琢磨する本講座のコンセプトには実効性があると考えています。受講を通して驚くほど力をつけた方が次々と輩出するのを見て、ますますその思いを強くしているところです。

世間の多くの読者の目に触れる可能性の高いテキストを素材にする作業は、講師も受講者も従来の講義型のクラスよりはるかに緊張を強いられます。それでも、自分の訳文が本になる過程への直接の関与と、それが実際に本になったときの喜びは、なにより得難い体験と言えるはずです。

どうぞ、ふるってご参加ください。

染田屋 茂

募集・選考

■ 応募受付 2017年2月18日(土)～

⇒ 応募者には**翻訳スキルチェック**を受けていただきます

- ・お申し込み受付後、スキルチェック用の課題をメールでお送りします
- ・スキルチェックの結果にもとづき、受講者を決定します

■ スキルチェック用訳文提出期限 2017年3月2日(木) 正午

■ 選考結果通知 2017年3月4日(土)

講座内容

実際に日本で刊行される可能性が高いノンフィクションの書籍1冊を、分担して訳します。受講者にはあらかじめ作品を読んできていただきます。第1回は全員で作品についての理解を深めながら、講師が翻訳上の注意などをお伝えします。第2回から第7回は、各回担当者の訳文をたたき台にして、書籍翻訳のコツを学びます。第8回は全員でゲラを校正し、最終回では、全体の総括をするとともに、受講者一人ひとりに対して講師がアドバイスを行ないます。課題作品が刊行される場合、第8回の日程はゲラの出校に合わせ、第9回は刊行直後となる予定です。

スケジュール

第1回 3月25日(土)	翻訳をはじめる前に 課題作品の内容理解、翻訳上の注意 など	
第2回 4月8日(土)	● 訳文検討①～⑥	
第3回 4月22日(土)		・各回、受講者1人の担当箇所の訳文を題材にします
第4回 5月13日(土)		・担当回の訳文は事前に提出していただきます
第5回 5月27日(土)		
第6回 6月10日(土)		
第7回 6月24日(土)		●
第8回 8月中旬 [予定]		ゲラ校正 実際のゲラを使った朱入れ など
第9回 9月中旬 [予定]	まとめ 翻訳者の役割、出版社との関係、個別アドバイス など	

お申し込み方法

- 1) 弊社ホームページからお申し込みください。
- 2) 事務局よりメールにて翻訳スキルチェック課題をお送りします。
- 3) **3月4日(土)**にメールにて選考結果をお知らせします。
- 4) 受講生の候補となった方には、講座の詳細とともに受講料の振込方法をお知らせします。**3月10日(金)**までに指定の銀行口座にお振り込みください。期日内にお振り込みがない場合は受講資格を失います。なお、いったん納入された受講料の返却には応じかねますのでご了承ください。

お申し込み <http://liber-ltd.com>
お問い合わせ <http://liber-ltd.com/contact>

● 次ページにて前回の受講者のみなさんの声を紹介しています ●

前回の受講者の声

◆ 既存の翻訳学校の講座がプールでの水泳訓練だったとしたら、今回のワークショップは海での遠泳のようなものだったと思います。限られた時間のなかで大量の原文を訳すことで、ペース配分や、原文に寄り添うかたちでの訳出など、職業としての翻訳に必要なノウハウを実地で身につけることができました。

◆ これまでの翻訳学校の授業では、基本的に自由に訳すように言われていましたが、やはり一冊の本にするには自分なりにベストな訳を決めなければならず、コメントをもらいながら、訳文をブラッシュアップしていく過程がとても勉強になりました。先生や受講生の方から、自分の訳文のクセを指摘されたことも非常に勉強になりました。また、校正も含めた出版のプロセスを学ぶことで、翻訳が翻訳者と出版者の共同作業だということが理解できました。

◆ まとまった分量の翻訳に責任をもって取り組ませていただき、大変得難い体験でした。全体を考えて訳す、訳文にフィードバックをもらって出版できるレベルまで練り直す、という書籍翻訳の実際に触れ、学ぶことが多々ありました。毎回、受講生の訳文の癖や個性に合わせたテーマを先生がピックアップして話をしてくださったのが、とても勉強になりました。少人数で話のしやすい雰囲気だったのもよかったです。

◆ 今まで翻訳学校でいくつかの出版翻訳のクラスに在籍してきましたが、翻訳家、翻訳会社、出版社の関係を学んだことはありませんでした。今回のワークショップで一冊の本ができるまでの工程を知ることができ視野が広がりました。原書 50 ページを訳すのは大変でしたが、ワークショップが終わった今となってはとても貴重な体験をさせていただいたと思っています。

◆ 書籍翻訳に求められる訳文の質というものについて、非常に大きな示唆をいただきました。通常の講座とは異なり、刊行を前提として、ある程度の分量に仕事として取り組むという点でも得られたものは大きかったと思います。

◆ 骨太のノンフィクションを約 50 ページもまとめて訳すのは得がたい経験でした。翻訳学校の課題ですと、どこかに「光る訳文」があればOK……という雰囲気になりがちですが、実際の仕事では全編で一定以上のクオリティを保たなければならないという当たり前の事実を突きつけられ、身の引きしめる思いがしました。

昨年秋にセミナーに参加したときは、その後、こんなにも早くお仕事のお声がけいただけるとは思ってもいませんでした。今回のワークショップを通じて「実地経験に勝る勉強なし」との思いを新たにしています。